

北畠氏館(別名無)(国史跡, 続百名城)(津市美杉町下多気字上村)(北畠神社)

南北朝から戦国時代、この多気の地は伊勢国司であり大名であった北畠氏の本拠地であった。その中心が多気のほぼ中央に位置する北畠氏館と詰城及びその背後の山頂にある霧山城からなる北畠氏城館である。南朝方の最も有力な公卿であった北畠親房の三男の伊勢国司顕能が、建武三年・延元元年(1336)親房と共に入国すると、伊勢地方に南朝方の城砦が設けられた。

しかし、北朝方足利氏にたびたび攻められ、康永元年・興国3年(1342)頃、顕能は多気に移り城館を築いたと言われる。

両朝統一の後、北畠氏はこの地方の大豪族として勢威を振り8代続いたが、天正4年(1576)織田信長に攻撃され落城した。

『「霧山城跡本丸跡説明板」、「北畠神社内説明板」参照』

